

## 環境目標 計画・取組結果

本学の中期目標・中期計画等の中に盛り込まれている数多くの環境関連の事項について、2017年度の実績結果は下記のとおりになっています。なお、本学の中期目標及び中期計画、年度計画等はこちらで見ることができます。  
大学HP <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/middle/third/>

### ■ 研究に関する目標

| 2017年度計画   | 2017実施状況（関係部分を抜粋）   | 達成度 |
|--|---|-----|
| <p>【17-1】本学の特色を活かした研究を推進するため、国際的に通用する高い水準にあると認められる先進的研究拠点として位置付けているYU-COE(S)の4拠点（山形大学ナスカ研究所、有機エレクトロニクス、総合スピ科学、分子疫学）及び将来拠点となり得る研究グループをYU-COEとして位置づけ、8,000万円以上の支援を行う。</p>  | <p>【17-1】本学の特色を活かした研究を推進するため、4拠点をYU-COE(S)、17拠点をYU-COE(C)として位置づけ、本年度も引き続き全学としての重点的な支援（総額8,000万円）を行った。有機エレクトロニクスについては、クラリベイト・アナリティクスが発表した高被引用論文数の分析による日本の研究機関ランキングで昨年度に引き続き、地方国立大学では唯一、材料科学分野で10位にランクインするとともに、高被引用論文著者2017年版において、本学の城戸淳二教授がMaterial Science（材料科学）分野において4年連続で選出された。</p>   | Ⅲ   |
| <p>【18-1】基礎研究の成果を活かした分野横断型研究を推進するため、将来拠点となり得る研究グループを公募し、新たな審査基準に沿った審査をYU-COE推進本部において実施し、新規及び継続合わせて15件選定し、YU-COEとして位置づけ支援する。また、各学部・研究科においては、新たな研究課題の創出に向けた取組を行う。</p>  | <p>【18-1】本年度も引き続き、将来先進的な拠点となり得る研究グループをYU-COE(C)として公募し、YU-COE推進本部において審査を行い、新たに8拠点を選定するとともに、平成28年度支援拠点の15拠点については、YU-COE推進本部において評価を実施した結果、YU-COE(C)として9拠点を継続支援することとなり、新規・継続合わせて17拠点の支援を行った。</p> <p>【YU-COE(C)】新規8拠点</p> <p>1.フードリテラシー育成のためのカリキュラム開発に関する国際的研究 2.新規金属材料開発拠点形成 3.偏光をプローブとした高エネルギー宇宙物理学の研究拠点 4.環境改変に対する迅速な生物進化の国際共同研究拠点 5.唾液中物質の網羅的・定量的測定技術を用いたSalivaomics研究拠点 6.グリーンおよびライフイノベーションを実現する材料・加工研究拠点 7.ドライフルーツを中心とした果実の6次産業研究拠点 8.水環境モニタリングによるアジアの薬剤耐性菌リスク研究拠点</p> | Ⅲ   |
| <p>【19-3】自立分散型社会の創生に向けて、高齢者環境整備、畜産業臭気対策、温泉熱バイナリー発電・小水力発電、豪雪地帯における夏季の雪冷熱源としての利用促進に関するプロジェクト研究等の地域課題に即したプロジェクト研究を継続して推進するとともに、4件の研究プロジェクトについては成果を取りまとめる。また、山形県農林水産部関係機関との連携を継続して図るとともに、食料自給圏「スマートテロワール」の確立を目指す研究を継続し、地元農業者及び地元加工業者等と連携を図る。</p> | <p>【19-3】東北創生研究所において、自立分散型社会の創生に向けて、山形県内の各地域における次の8件のプロジェクト研究の成果をとりまとめた。</p> <p>①排雪を利用した雪冷房システムの構築（米沢市）②ICTを利用した地域コミュニティ再生の構築（戸沢村）③廃校を利用した大葉の夏季生産システムの実証結果（真室川町）④耕作放棄地での落花生栽培の実証結果（真室川町）⑤耕作放棄地での菊芋栽培の実証結果（長井市）⑥再生可能エネルギー（小規模水力発電）の利活用システムの実証結果（飯豊町）⑦高齢者の環境整備に関する研究 ⑧畜産業の臭気対策に関する研究</p> <p>また、食料自給圏「スマートテロワール」の取組として、プロジェクトの経過報告・加工品の試食会を実施した。</p>   | Ⅲ   |

## 環境目標 計画・取組結果

### ■社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

| 2017年度計画   | 2017実施状況（関係部分を抜粋）  | 達成度 |
|--|--|-----|
| <p>【23-1】学生の地域志向意識を向上させるため「山形から考える」科目群の履修率を100%とするともに、開講状況を検証し、地域資源を活用したフィールドワーク、アクティブ・ラーニング、PBL型科目を充実させる。また、学部においては地域や企業をフィールドとした実践・実習型授業科目を更に充実するほか、学部学生に山形をはじめとする南東北地域への就職を勧めるための方策や、地域医療に理解を深める教育や実習の実施等を継続する。</p> | <p>【23-1】2017から「山形から考える」科目群を必修とし100%の履修率を達成した。「山形から考える」はすべてアクティブ・ラーニング型授業とし、そのうち地域で学ぶフィールドワーク型授業は全体の約半数となっている。基幹科目ワーキンググループにおいて「山形から考える」の充実に向けて、フィールドワークに関するガイドブックを作成した。今後それを用いてFDの実施と学生への意識付けを行うこととしている。</p> <p>農学部では「地域から学ぶ」を開講し、外部講師から学生に向けて地域の情報を発信した。また、「農家体験実習」を開講し、実際に庄内地方の17軒の農家で40名の学生がフィールドワークを体験した。</p> | III |
| <p>【26-3】やまがたフィールド科学センターの森林及び農地を森林リクリエーションやグリーンツーリズムあるいはエコツーリズムの拠点として活用し、市民や子供たちに野外学習の機会を提供するほか、小区画の畑を地域市民へ貸し出し家庭菜園講座を実施する。</p>  | <p>【26-3】やまがたフィールド科学センターにおいて体験型学習「森の学校」を年3回開催し小学生と学生・高校生ボランティアを合わせ延べ133名の参加者があった。</p> <p>近隣保育園や障害者施設、小学校・高校等からの本学農場への訪問件数は2017年度40件あり人数は保育園児等が785名、一般市民（大人）が295名であった。</p> <p>市民交流農園利用者と夏にBBQ大会、秋に芋煮会を行い利用者と本学教職員、学生等で交流を深めた。また開園式では本学農学部教員が食用菊についての講義を行った。</p>   | III |

## 環境目標 計画・取組結果

### ■施設設備の整備・活用等に関する目標

| 2017年度計画  | 2017実施状況（関係部分を抜粋）   | 達成度 |
|---|---|-----|
| <p>【67-1】 機能的で魅力あるキャンパスづくりを推進するため、「学生生活実態調査報告書2013」等から抽出・分析した結果を基に、学生の視点で必要とされる教育研究施設の更なる整備に取り組む。</p> | <p>【67-1】 「学生生活実態調査報告書2013・2016」等から学生の視点で必要とされる整備の抽出・分析し以下の通り対応を行っている。○教育学系総合研究棟改修（基盤教育3号館）では学生から要望のあった老朽の改善に加え、学生の自習学修環境強化など機能改善整備を実施。安全・安心な学修環境の確保と学生の学習意欲促進、自然との共生を目指し、工学部図書館の耐震改修、省エネ改修及びアクティブラーニングスペースの整備による学修環境の充実などの機能改善整備の設計を実施。○機能的で魅力あるキャンパスづくりのため、自然との共生・サステナブルキャンパス構築を目指してエコキャンパス整備支援（省エネ化や屋外環境整備の取組を学内公募し資金と技術支援を行う）事業等を10件実施した。</p> | III |
| <p>【67-2】 施設利用者の安全・安心な環境を確保するため、基盤教育3号館の老朽及び機能改善整備を行うとともに、継続してエクステリアハザード（屋外危険箇所）解消整備を行う。</p>          | <p>【67-2】 教育学系総合研究棟改修（基盤教育3号館）では全面的な老朽改善による安全安心な環境整備に加え、学生が主体的に学び考えるアクティブラーニングスペース整備や、1階ピロティを学生の授業外学習を促進するためのラーニング commons へも対応する交流スペースを整備するなど多様なコミュニケーションを図ることができる学修環境スペース（1,376㎡）を整備し機能改善を実施した。施設の安全確保のため、昨年に引き続きエクステリアハザード（屋外危険箇所）解消整備を計画的に実施した。アスベスト対策の推進として、教育学系総合研究棟改修（基盤教育3号館）、本部事務棟トイレ改修工事においてアスベスト含有保温材の除去を適切に実施した。</p>                  | III |